

第2号議案：「第2の創業」実行計画 および3か年の収支計画

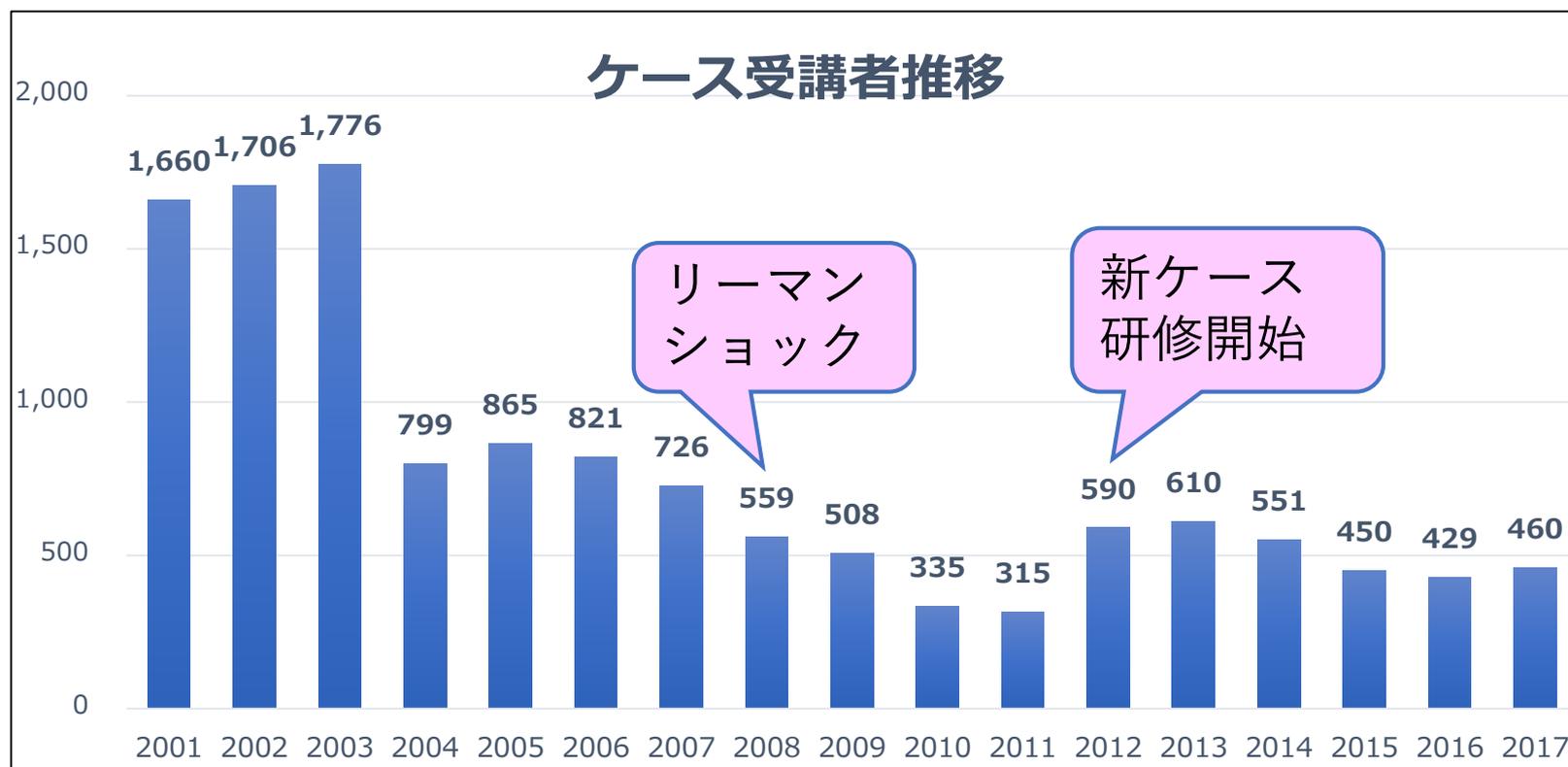
2018年 6月 26日

特定非営利活動法人ITコーディネータ協会

1. 「第2の創業計画」発意の心

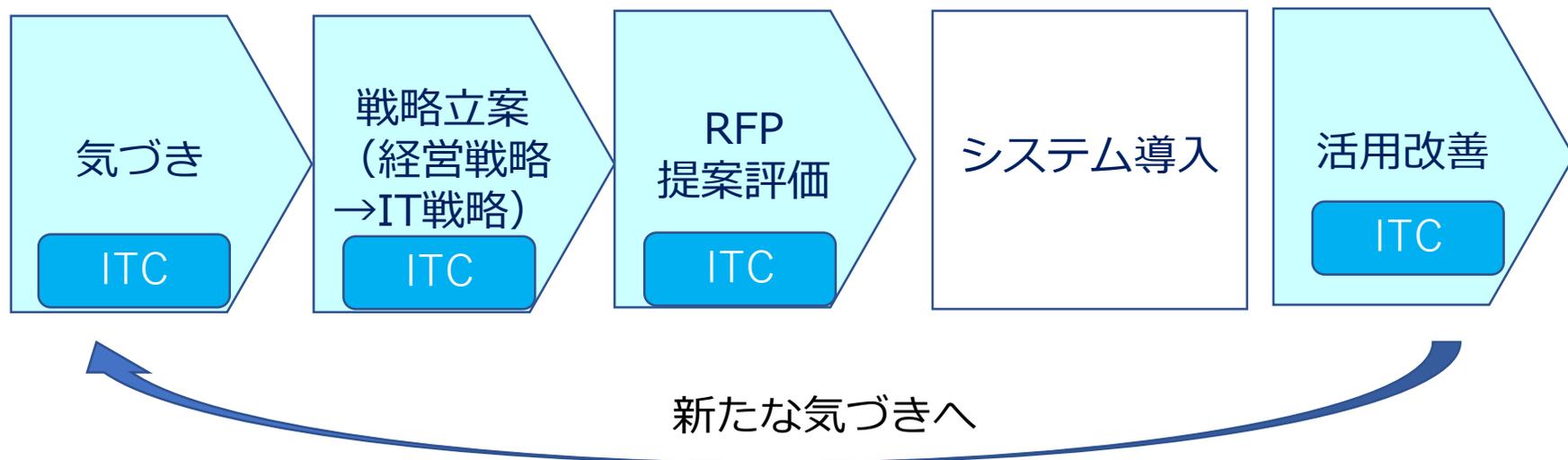
創業以来17年半の歩み

- 2001年2月に経済産業省によって創設以来、経産省の厚いバックアップがあった最初の3か年は活況を呈しておりましたが、その後はITコーディネータ6000人程度で伸び悩みを続けており、中小企業・小規模事業者等の支援者として確たる地位を確立しているとはいえません。



ITを経営の力とするプロセスとITコーディネータの役割

- しかしながら、「ITを経営の力とするためには、経営戦略のなかでITをどのように活用するかを整理することから始める必要がある」という私たちITコーディネータのバックボーンであるプロセスガイドラインの考え方は今でも大変重要で、強い訴求力を持っています。



- また、昨今、人手不足・事業承継問題等で中小企業・小規模事業者等が瀬戸際の厳しい環境におかれているなかで、ITを経営の力として活かして生産性を高め発展することを支援する伴走型の支援者として、ITコーディネータに対する注目度は高まってきております。

第2の創業計画

持てる力をフルに
発揮しよう



- このような状況下、もう一度、創業の原点に立ち返って、ITコーディネータの持てる力が正しく発揮され、日本の中小企業・小規模事業者等を元気にすることができるように、従来の延長線上ではなく、しかるべく存在感・影響力を発揮できるようにITコーディネータ2万人態勢を目指して、ITコーディネータの気概と技能を最大限引き出しつつ様々な改革を進めることとしたく、「第2の創業計画」を発意しております。



ジョン・F・ケネディ
第35代 アメリカ大統領
(1960年～1963年)

月へ行くことなどを、この10年のあいだに実現すると決めたのは、それが容易だからではなく、困難だからである。

そうした目標を設定することによって、われわれの気概と技能がどこまで引き出せるかを測れるかであり、そうした挑戦こそはわれわれが進んで受け入れたいもの、先延ばしにしたくないもの、そして絶対に成功すると決意しているものだからである。

1961年5月25日

2. 「第2の創業」実行計画 2018～2020年度

(1) 実行計画をつくるうえでの基本スタンス

- 長らく、人物金の不足から思い切った手が打ててこなかったきらいがありますが、幸いまだ創業時に各方面からご支援いただいた積立金が2億8千万円残っておりますので、これを2018年度、2019年度の2年間に1億3千万円先行投資として使わせていただき、2020年度には黒字転換できるように運営してまいりたいと考えております。
- なお、収支計画は毎年実績を踏まえて見直しを図りながら進めていく所存でございます。

(2) 実行計画が想定する成長ストーリー

- a. 2万人態勢を目指して、プロとして活躍されているITコーディネータはもとより、75%を占める企業内のITコーディネータの皆さんがともに活性化するためには、皆さんの活躍の梃子となる「商品」を協会が提供していくことが必要だと考えております。



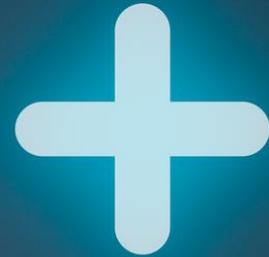
b. ITコーディネータの仕事売り込むということは、例えば、生理的な欲求である喉の渇きに対して清涼飲料水を売るという仕事とは本質的に異なり、お客様のニーズの掘り起こし（気づき）から始める必要があります。

C. 協会は新たに「ネットワーク促進部」をつくり、陣容も強化して、各地の届出組織と連携しながら、行政や銀行・信金、支援機関等とのネットワークキングを促進してまいります。

肝要なことはネットワークキングの先にITコーディネータの仕事につなげていく次のステップをどう踏んでいくかではないかと思えます。これは、各届出組織で実施いただいている「IT経営カンファレンス」においても同様のことが言えるのではないかと思います。



協会・届出組織全体として「ネットワークの先のステップ」について「型」を作っていくことが重要だと思えます。



d. 多くのコンサルティング業がそうであるように、やはり私たちの仕事の入り口は経営者を対象とした研修で、経営者に「ITを経営の力とする」ということについて学んでいただき、「喉の渇き」に気づいていただくことから始める必要があると思います。



- e. これまで、私たちのメインの商品として「ケース研修」があったわけですが、これはどちらかというとITコーディネータを育成するための研修という色合いが強かったと思います。

たまたまそこに参加した中小企業の経営者やシステム担当役員からは、「目から鱗が落ちるような体験だった」「ITを経営の力とするためにはこういう手順で考えていく必要があるのか初めて知った」という声をいただいておりますが、広範な経営者に学んでいただくためには、やはり6日間・20万円はハードルが高過ぎると思います。



f. ITコーディネータの叡智を結集し、一方、経営者の声もよくお聴きしながら、2日間・3万円程度の「ITを経営の力とする入門講座」をつくり、ネットワーキングの先に行政や銀行・信金、支援機関等とタイアップして経営者に受講していただくことを促進していくことができれば、ITコーディネータの成長ストーリーを次のように描くことができると考えております。

「第2の創業」実行計画 成長シナリオ

伴走型支援者として
中小企業等を
徹底支援する態勢

2018~2019
年度

先行投資期間
として位置づ
け、創業以来
の積立金を一
部使わせてい
ただき、
①ネットワー
キングの強
化、②研修カ
リキュラムの
充実、
③ITCと協会
のコラボ態勢
の確立を行う

ネットワーキング
の先に銀行等と
タイアップして「IT
を経営の力とする
入門講座」を用意
し、経営者等に受
講を促進

受講経営者から研修講師
に「経営とIT」を相談し
たい → ITCビジネス
へと発展

①

ITCへの相談

②

中小企業等が「ITを
経営の力」として活
かしやすくなる

③

届出組織の活性化、
強化
・研修実施機関の拡
大、入門講座研修の
頻繁な実施→ケース
研修の実施→若手
ITCの育成
・企業内とプロのコ
ラボの推進
・企業内ITCの組織
化

企業内ITCの実践の場
の提供
企業内ITCの更新率の
向上

④

2020年度

・ITC7100人
・入門講座受講
者 2300人と
見込む

社会的存在感、
認知度の向上

g. 以上の成長ストーリーは3か年をかけてステップを踏みながら実現していきます。

- ① 2018年度は、11月頃までを目途に「ITを経営の力とする入門講座」の研修カリキュラムを、ITコーディネータの叡智を結集し、経営者の意見もよくお聴きしながら策定する。
- ② 一方、これを多くの届出組織が企業内ITコーディネータとコラボしながらスムーズに実施していけるように、研修講師用のマニュアル・講座などを用意する。また、届出組織が頻度を上げて実施していただけるように実施に至る協会内の業務プロセスも整備する。
- ③ 2018年11月頃、コミュニティ大会・企業内ITC懇談会などで広くITコーディネータのご意見をお伺いして、上記の内容をブラッシュアップする。
- ④ 2019年2月頃、例えばこれからつくる「ユーザ経営者会」の経営者を対象に試行的に実施し、さらに内容をブラッシュアップする。

- ⑤ 2019年度から本格展開し、2020年度には毎月どこかの届出組織でこの研修が行われている状態を目指す。
- ⑥ この成長ストーリーが実現できれば、2020年には、受講者が2300人くらいに上ると見込まれ、波及効果によりITコーディネータの数も増えて、更新率も高まれば、7100人くらいのITコーディネータ体制をつくることできると思われれます。

そのように成長することができれば、2020年には2年間の先行投資を取り戻して収益向上を見込むことができます。

そして、何よりも大切な「ITコーディネータが伴走型支援者として中小企業・小規模事業者を徹底支援する態勢の確立」に向けて大きな一歩を踏み出すことができると考えております。

(3) 「ITを経営の力とする入門講座」のカリキュラムについて

経営者が「是非受けてみたい」「これは役に立つ」と思えるようなものをつくっていくことが肝要です。次のような点がポイントではないかと思います。



- ① 受講経営者がプロセスガイドラインのエッセンスを学び、「ITを経営の力として活かす」考え方を腹落ちして理解し、自社で実践してみようと思える。(効果的に社会ゲームなども取り入れた内容としていきたい。)
- ② 日々経営のなかで多かれ少なかれITに関連することに対峙せざるを得ない経営者に、それらに立ち向かえるヒントを与えることができる。



- ③ ひとりで様々なことを考えなくてはいけない経営者に「経営とIT」については、ITコーディネータという相談相手がいると知ってもらえることができる。

3. 3か年の収支計画、および2018年度予算

(1) 以上の成長ストーリーを軸に、以下のような点にも力を入れて参ります。

- ① 研修は、ITコーディネータの活躍の梃子となる「商品」であるとの認識のもと、研修カリキュラムの充実に力を入れます。
- ② プロセスガイドラインについても、適宜適切な改定が行えるように努めるとともに、3か年の間には中国・ベトナム等への海外展開も展望していきたいと考えております。
- ③ 2018年度初に実施した、届出組織との、あるいは企業内ITコーディネータとの「ITコーディネータの未来をともに語ろう会」のようなコミュニケーションパイプを今後も継続的に築き、すべてのITコーディネータと協会がコミュニケーションよく、ともに明るく未来を築けるように進めていきます。

- ④ ネットワーキングの先に適切なITコーディネータを紹介できるように、ITコーディネータの皆さんとともに「ITコーディネータ・データベース」の充実を推進していきます。
- ⑤ 経産省の「中小企業IT経営力大賞」あるいは「攻めの中小企業IT経営力百選」の取組みが終了した今、協会として「ITを経営の力として活かした」優れた取組みを表彰するようなことも検討していきます。

(2) これらを織り込んだ3か年の収支計画は以下のとおりです。2018年度の収支計画は、そのまま2018年度の予算とさせていただきたいと思いますが、2019年度以降は、2018年度の実績を踏まえて、適宜見直しを図りながら進めていきたいと思っています。

収支計画 2018a/c VS 2020a/c		2018年度			2020年度		
		収入	支出	収支	収入	支出	収支
資格者関連事業		194	79	115	285	119	166
① (ケース、試験、認定、フォローアップ、更新)		(191)	(57)	(134)	(228)	(67)	(161)
④ (入門講座)		(3)	(22)	(▲19)	(57)	(52)	(▲5)
教育研修事業	②	36	43	▲7	38	44	▲6
(ITCA研修)		(20)	(25)	(▲5)	(22)	(26)	(▲4)
(ITCカンファレンス)		(16)	(18)	(▲2)	(16)	(18)	(▲2)
会員拡大	③	17	4	13	42	6	36
新規・託事業		59	67	▲8	43	44	▲1
戦略投資		11	94	▲83	4	106	▲102
⑤ (戦略投資)		(7)	(51)	(▲44)		(57)	(▲57)
⑥ (活動費)		(4)	(43)	(▲39)	(4)	(49)	(▲45)
管理費用			109	▲109		91	▲91
⑦							
合計		316	396	▲80	412	410	2

収支計画

2017a/c VS 2018a/c

2017年度

2018年度

資格者関連事業

(ケース、試験、認定、
フォローアップ、更新)

(入門講座)



教育研修事業

(ITCA研修)

(ITCカンファレンス)

会員拡大

新規・受託事業



戦略投資



(戦略投資)

(活動費)

管理費用

合計

	2017年度			2018年度		
	収入	支出	収支	収入	支出	収支
資格者関連事業	180	55	125	194	79	115
(ケース、試験、認定、 フォローアップ、更新)	(180)	(55)	(125)	(191)	(57)	(134)
(入門講座)				(3)	(22)	(▲19)
教育研修事業	44	51	▲7	36	43	▲7
(ITCA研修)	(28)	(30)	(▲2)	(20)	(25)	(▲5)
(ITCカンファレンス)	(16)	(21)	(▲5)	(16)	(18)	(▲2)
会員拡大	24	4	20	17	4	13
新規・受託事業	837	813	24	59	67	▲8
戦略投資	7	35	▲28	11	94	▲83
(戦略投資)		(12)	(▲12)	(7)	(51)	(▲44)
(活動費)	(7)	(23)	(▲16)	(4)	(43)	(▲39)
管理費用	1	97	▲96		109	▲109
合計	1,093	1,056	37	316	396	▲80

4. 「クレド（信条）」のもとでの実行

- (1) 以上の取組みの成否は、届出組織および独立系・企業内の個々のITコーディネータと協会との熱くかつ効果的な連携ができるかどうかにかかっていると思います。
- (2) しかし、その前に、協会として仕事の仕方について大いなる見直しが必要だと考えております。これまで協会の歴史においても数々の優れた取組みが行われきました。しかし、それらの取組みは職員個人がそれぞれ良かれと思って進めてきたことが多く、組織として「1 + 1」が2以上になり、組織として継続して発展していけるような取組みにはできていないことが多かったと思います。
- (3) 組織として皆が同じ方向を向いて継続性のある仕事の進め方をしていくことが肝要です。
- (4) そのため、協会の職員が日々の仕事を行う際、何を大切と考えて仕事を行うかの指針となる「クレド（信条）」を策定しました。
- (5) これに沿って、職員全員がITコーディネータに向き合い、ITコーディネータとともに「第2の創業・実行計画」を進めていくこととしたいと考えております。

ITコーディネータ協会のクレド（信条）

- 私たちは、ITコーディネータという仕事や資格の価値を大切に思い、その価値が最大化されるように日々の活動をおこないます
 - 私たちは、多くのITコーディネータが中小企業・小規模事業者等を広く支援することができるようにつとめます
 - 私たちは、プロセスガイドラインを尊重し、その普及につとめるとともに、時代の進展に合わせて適切な改定をおこないます
 - 私たちは、ITコーディネータの能力を高めるために常に研修カリキュラムの充実につとめます
- 私たちは、ITコーディネータと良好で公平な関係をたもち、ITコーディネータの未来をともに築きます
- 私たちは、ITコーディネータとともに、日本の中小企業・小規模事業者等がITを経営の力として生産性を高め、発展することを支援します



是非、皆で、明るく楽しくITコーディネータの明るい未来をつかっていきましょう。